

## ○興行場営業の現況について

### 1. 業界(組合員)の経営環境について

連合会名：全国興行生活衛生同業組合連合会

#### 業界(組合員)の経営資源の強み

- ・映画館は生活圏内にあり利便性が高い。
- ・他のレジャーに比べ比較的安価である。
- ・シネコンの設備等は相対的に新しく、利用者満足度は高い。
- ・作品への依存度が高い（ヒットすれば経営は安定）。

#### 業界(組合員)の経営資源の弱み

- ・設備産業の側面があり多額の費用を要する。
- ・定期保守、管理を要し多額の費用を要する。
- ・中小の独立館の設備はシネコンと比べ相対的に古く、利用者満足度は低い。
- ・作品への依存度が高い（ヒットしなければ経営は不安定）。

#### 業界(組合員)を取り巻く環境 → (競合(大手等)、顧客、マクロ環境など)の良い状況

- ・2014年より平均単価は上がり続け、昨年は5円アップの1,315円。
- ・2013年よりスクリーンは増え続け、昨年は35スクリーン増の3,525スクリーン。
- ・組合スクリーン数 3,450スクリーンは全国の 97.8%を占め、加入率は高い。
- ・年間興行収入約 2,225億円、動員約 1.69億人と2000年以降3番目の好成績。
- ・ODS(映画作品以外の上映、中継)は107億円と引き続き好調。昨年は103億円。
- ・邦画と洋画の構成比は、55:45と平年並み。
- ・4DXなどの体感型シアターに加え、IMAX、ドルビーシネマなどの音響、映像の差別化を図った設備が人気を博した。
- ・映画、演劇は話題性が高くマスコミに大きく取り上げられるケースが多い。

#### 業界(組合員)を取り巻く環境 → (競合(大手等)、顧客、マクロ環境など)の悪い状況

- ・中小の独立館の閉館が止まらない。(前年比 10館 17スクリーン減)
- ・映画料(原価)は高止まり傾向にあり、興行者には厳しい状況。
- ・従業員の不足。人件費増に伴う経費圧迫。
- ・消費税増に伴い、20年間以上据え置いてきた入場料金の見直しが迫られている。

## 2. 振興指針に定められた事業の取組状況等

連合会名：全国興行生活衛生同業組合連合会

### 組合で策定する振興計画の作成に当たっての指導、振興計画の取組状況等の把握

- ・ 組合からの問い合わせには、連合会として積極的に相談・指導にあたり、協議の中で適切なものを選択。
- ・ 良い事例は他の組合にも紹介を行う。

### 組合への支援事業の取組状況

- ・ 永年勤続、優良従業員表彰制度の推進。
- ・ 映画に関するイベントの紹介、レポート等の配布。
- ・ 自主規制指導員制度の実施。
- ・ 生活衛生関係営業対策事業費補助金関連の迅速なる案内及びサポート。
- ・ 「映画館へ行こう！実行委員会」実施及び参加内容の連絡確認。

### 特に成果の上がった事業(取組)

- ・ 利用者の利益擁護、サービスの提供方法に関する事業の定着。  
(夫婦50割引、シニア割引、障害者割引、映画サービスデー等の割引制度)
- ・ 音声/字幕ガイド付き上映システムの導入。
- ・ 盗撮、違法ダウンロード防止に関する啓蒙活動。
- ・ 経営の近代化、合理化に関する事業。(Cinema Conの参加によりアメリカの最新情報を

提供)

### 取組が難しい事業

- ・ 事業の共同化及び協業に関する事業(共同購入・共同広報の実施)

### 改善方策